

## 日本語教育機関のための自己点検・評価項目について

この点検・評価項目は、日本語教育機関が自己点検・評価を行うに際し設定する項目の参考となるように作成したものである。これらは「基準」対象外のコースについても適用することができる。

項目は、教育活動を支える設置者及びそのマネジメントに関する部分と、運営に関する部分から成っている。前者には大項目として理念・教育目標、組織、財務、教育環境、安全・危機管理、法令の遵守等を設け、後者には運営全般、学生募集、教育活動、学生支援、教育成果を設けている。大項目の下には、それぞれ中項目、及び小項目を設定している。

点検に際しては、まず小項目を点検・評価し、それを中項目ごとにまとめる。そして大項目で達成状況、課題、改善計画等を記述する。

点検・評価に当たっては、教務及び事務の責任者と校務の統括責任者による態勢を組んで行うことが望ましい。

小項目の評価は、以下の分類とし、[ ]に記号を記入する。

- A : 達成されている。
- B : ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる。
- C : 達成に向けて努力している。
- D : 達成されていない／必要性に気づいていなかった。
- X : 該当しない。

## 自己点検・評価項目

設置者 株式会社 新亜国際  
新亜国際語言学院  
校長 羽野憲昭

1	教育理念・教育目標	評価
1	1-1 理念・目的・育成人材像はさだめられているか	【 A 】
2	1-2 学校の特色は何か	【 B 】
3	1-3 学校の将来構想を抱いているか	【 B 】
4	1-4 理念に基づく教育が行われているか	【 B 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

楽しい授業だけでなく厳しい指導を行う。また、希望する進学先のさらに上の目標設定を行い、日本語教育を行うだけでなく、社会に適應できる人材を育てることを目標としている。この理念、目標に沿って、指導を行っている。

クラスは学習到達レベルによって分かれており、出来る限りクラス内でのレベル差が生じないように配慮している。これにより、学習者が効率よく学べるように担当指導者は工夫して指導を行っている。

当学院の将来構想としては、以下が挙げられる。

- ① 教育の質的維持及び向上
- ② 学生管理、組織運営の向上
- ③ 法人の健全な経営

2	学校運営	評価
5	2-1 運営方針は定められているか	【 A 】
6	2-2 事業計画は定められているか	【 B 】
7	2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	【 B 】
8	2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	【 A 】
9	2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	【 B 】
10	2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	【 B 】
11	2-7 危機管理体制は整備されているか	【 B 】
12	2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるように整備されているか	【 B 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

運営方針及び事業計画は、毎年半年毎に全体会議を開き、運営方針を示し、それを基に教職員全員で事業計画を策定している。

日々の業務上の諸問題は、必要に応じて打ち合わせがなされ、課題や進捗状況等の確認、修正を行っている。

人事給与制度は、仕事に対するモチベーション維持、向上の為に昇給・手当等の規則を提示し、理解を得ている。

危機管理体制としては、最新の学生情報の共有及び、ガイダンス等行うことにより、教職員・学生への連絡網の作成など意識強化を図っている。

3	教職員	評価
13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	【 B 】
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	【 C 】
15	3-3 教職員評価を行っているか	【 B 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

教職員全員が、事業計画策定に携わることで、理念・目的・目標等を共有している。非常勤講師においては、採用の際に必ず面談・模擬授業を行い、必ず学院の教育理念・目的を共有し、共鳴頂いた講師のみを採用している。

教職員評価については、個人目標を基に年度末にまず教務主任が面談を行い、その報告を受けた上で校長が面談を実施し、次年度の年俸や時給等に反映している。

4 教育活動			評価
16	4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか	【 A 】
17	4-2	授業評価の実施・評価体系はあるか	【 B 】
18	4-3	目標に向け授業を行う事の出来る要件・資質を備えた教員を確保しているか	【 B 】
19	4-4	成績評価は適切に行われているか	【 A 】
20	4-5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体系は整っているか	【 A 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

学習到達レベルによってクラス分けがなされ、初級から上級レベルまでの体系的なカリキュラム編成の下クラス分けがなされている。

各クラスには担任があり、クラスごとの指導目標の達成に向け、クラス担当講師と連携しながら教育を行っている。各学期開始前には、教員会議を行い目標・目的・進捗状況など再確認するように努めている。

成績評価については、各学期ごとに中間・期末テストだけでなく小テストや授業態度などを加味した成績評価がなされるようにしている。また、それを基に次学期のクラス分けに反映され、出来るだけ効率よく学べるように配慮試験対策についても、レベル分けされたクラスにより、実施内容をそのクラスに合わせ、認定率向上に努めている。

5 学生支援			評価
21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	【 B 】
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	【 B 】
23	5-3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	【 A 】
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	【 A 】
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	【 B 】
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	【 A 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

専門学校・大学・大学院・就職の進路において、教務主任が個々の学生全員に対して個人面談を行い、その情報を各クラスの進路指導担当教員と共有し、本人へのカウンセリングを定期的に行い、進路に対する意思を明確にさせ、希望に沿った指導を行っている。

職員は、日頃の相談対応のほか、生活相談にも対応し、緊急連絡先を周知させ、様々なサポートに対応出来るように寮チェックなど、生活指導を行い日本での生活環境に適応出来るように支援している。

学生に何らかの問題が発生した場合、状況に応じて保護者に連絡し、連携できるようにしている。また、留学紹介機関に対しては、学生の出席・成績状況を定期的に報告し、問題がありそうな学生には、留学紹介機関・保護者と連携して対応し、出来る限り問題を未然に防ぐように心がけている。

卒業生が証明書等必要とする場合や支援を必要とする際には、適切に対応している。

6 在留管理と生活指導			評価
27	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	【 A 】
28	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	【 B 】
29	6-3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	【 A 】
30	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	【 B 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

入国、在留関係及び生活指導については、入学時にオリエンテーションを行っており、加えて、随時各クラスでも行オリエンテーションでは、教育的側面から授業や定期試験、進路指導や成績評価について、事務的側面から出席率、学費の払い方、在留カード・保険証の携帯と更新、生活サポートとして、アルバイト、非常時の対応、自転車交通マナー、生活マナーなど、遵守すべき社会的ルールも交えて行っている。更に各クラスでも折につけ注意喚起している。

学生情報は、把握の為に学生一人一人の情報（住所・連絡先・アルバイト状況など）確認を行っている。変更がある場合は、変更届を提出させるよう義務付けている。得られた情報はデータ管理し、学生の情報のほか、指導上の留意点など入力し、関係者が閲覧して情報を共有し、日頃の指導に活用できるようにしている。

7 学生の募集と受入れ		評価
31	7-1 学生の受け入れ方針は定められているか	【 B 】
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	【 B 】
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	【 B 】
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	【 A 】
35	7-5 適正は定員設定及び在籍者数になっているか	【 A 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

学生の受入れに当たっては、当学院の教育理念・目的に照らして、日本留学目的、日本語学習目標、経費支弁能力において問題のない学生を受け入れるという基本方針を定めており、その方針に沿って、日本語学習に支障のない学生を受け入れている。

学生募集については、大学・専門学校・留学紹介機関等信頼できる機関を厳選し、当学院の方針等の理解を得、契約した上で募集活動を行って貰っている。

学生選考は、入学希望者から提出された資料を基に、現地に赴いての直接面接やWeb環境（Skypeなど）を用いた面接を学院職員が行い、結果や資料等を適正かつ公平に総合的に審査し、選考している。

学院が提供する教育サービス等の質が保障できるよう適正な定員設定をした上で、定員を超えないように在籍者数と入学希望者数を調整している。

8 財務		評価
36	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	【 C 】
37	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	【 B 】
38	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	【 A 】
39	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	【 C 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

財務基盤は安定してきていたが、新型コロナウイルスの影響により、予算・収支計画通りの実績が出せない。安定的な財務基盤を実現できるように更に進めていく予定である。

外部の会計士に委託し、会計処理に問題がないか、年1回の決算において適正な会計処理がなされているか等、監査出来るような体制にしている。

財務情報公開については、検討中である。

9 法令等の遵守		評価
40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	【 A 】
41	9-2 個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか	【 B 】
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	【 B 】
43	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	【 B 】
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	【 B 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

当学院は、法令や関連基準等の規定を順守して運営しており、東京入国管理局への定期報告等定められた報告も適正に行われている。

今後も告知基準に則り、定期的の実施し、問題点の改善に努めたい。

10 社会貢献		評価
45	10-1 学生の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	【 C 】
46	10-2 学生のボランティア活動を推奨・支援しているか	【 A 】

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

学生のボランティア活動の推奨・支援として、各学期末には学生が学院周辺の清掃を行い、地域の環境美化に取り組

## 自己点検・評価

日本語教育機関名： 新亜国際語学院

点検・評価実施日： 2023年12月

実施責任者： 羽野 憲昭

実施担当者名(役職)： 校長 羽野憲昭